



5類移行後の感染爆発は沈静化！

新型コロナの分類が5類に引き下げられた後、大流行したヘルパンギーナなどの夏風邪、RSV感染症は8月になり少なくなりました。アデノウイルスや溶連菌などの感染症もこの時期に同時発生したため、6月から7月にかけて小児科の外来は大変混雑しました。8月後半からこれらの感染症が下火となり、小児科外来はやっと落ち着きを取り戻しました。

一方でこの時期の新型コロナとインフルエンザの発生動向はどうだったのか？
新型コロナ、インフルエンザ(すべてA型)はともに7月から患者数が増え始めました。新型コロナの発生は8月に入っても高止まりの状態が続いていますが、インフルエンザはお盆明けから急激に減少してきています。ちなみに、8月21日～27日の今治市内の1医療機関あたり報告数は、新型コロナが16.5、インフルエンザが1.8となっています。

今年の夏は、お盆の帰省や国内旅行回帰などで人の移動が活発になりました。社会活動がコロナ禍前に戻ったにもかかわらず、今回、第8波のような急激な新型コロナの感染拡大がみられないのは、地域レベルでの集団免疫が一定程度できた証だと考えます。

ヒトメタニューモウイルス感染症

現在、市内の一部の保育所でヒトメタニューモウイルス感染症が流行しています。聞き慣れない病名かもしれませんが、**気管支炎や肺炎を起こす呼吸器の感染症**です。発熱、咳、鼻水などの風邪症状に加えて、ゼーゼーなどの呼吸困難を伴い、重症になり入院になることもあります。

症状はRSV感染症に非常に似ています。1～3歳の小児で流行することが多いですが、大人にも感染します。子ども呼吸器感染症の5～10%、大人の呼吸器感染の2～4%が、このウイルスが原因だと考えられています。



8月の感染症症情報

8月前半は、新型コロナ、インフルエンザ(A型)ともに7月に引き続いて発生が多かったですが、8月後半からインフルエンザは少なくなりました。新型コロナは8月後半も横ばいの状態です。RSV感染症、ヘルパンギーナは8月に入り減少していますが、アデノウイルス、ヒトメタニューモウイルス感染症などの散発的な発生が続いています。



8月の利用状況

8月の利用延べ人数は107名、1日平均利用人数は5.4人でした。年齢別では1歳児が40人で最も多く、次いで2歳児、3歳児が同じで19人でした。疾患別では急性上気道炎が50人で最も多く、次いでA型インフルエンザ20人、アデノウイルス感染症11人の順でした。

ヒトメタニューモウイルス感染症でお預かりしたお子さんで、咳がひどくなり、県病院を紹介したケースがありました。普通の風邪と考えてお預かりしたお子さんが、症状が長引き、診断が変わることもあります。入室したお子様については、看護師と医師が連携をしながら経過をみていますので、ご安心ください。